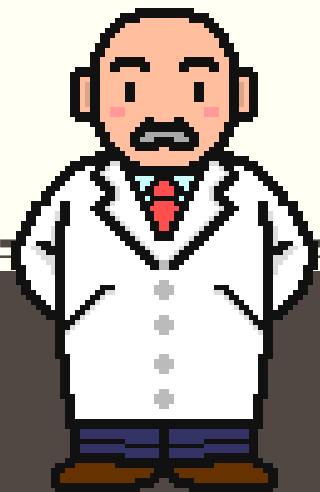


5分でなるほど納得！ ミニ研修スライド

若年の先生方へ その5！

最優先すべき安全の確保②

～PART2 子供自身の安全に関する意識の向上～



はじめに

前回は、「**たくさんの知識より、ちょっとした意識が大事！**」
「**とにかく、そんなに多くの時間は必要ないので、危機管理、大事に
しましょう！**」をお伝えしました。

今回お伝えするのは1つだけ。それは、当たり前だけど、一番大事なこと **「子供自身の安全に関する意識を高めよう！」**です。

このことが**大事な理由**と、その**意識を高めるためにすべきこと**について話をします。

子供の意識が大事な理由

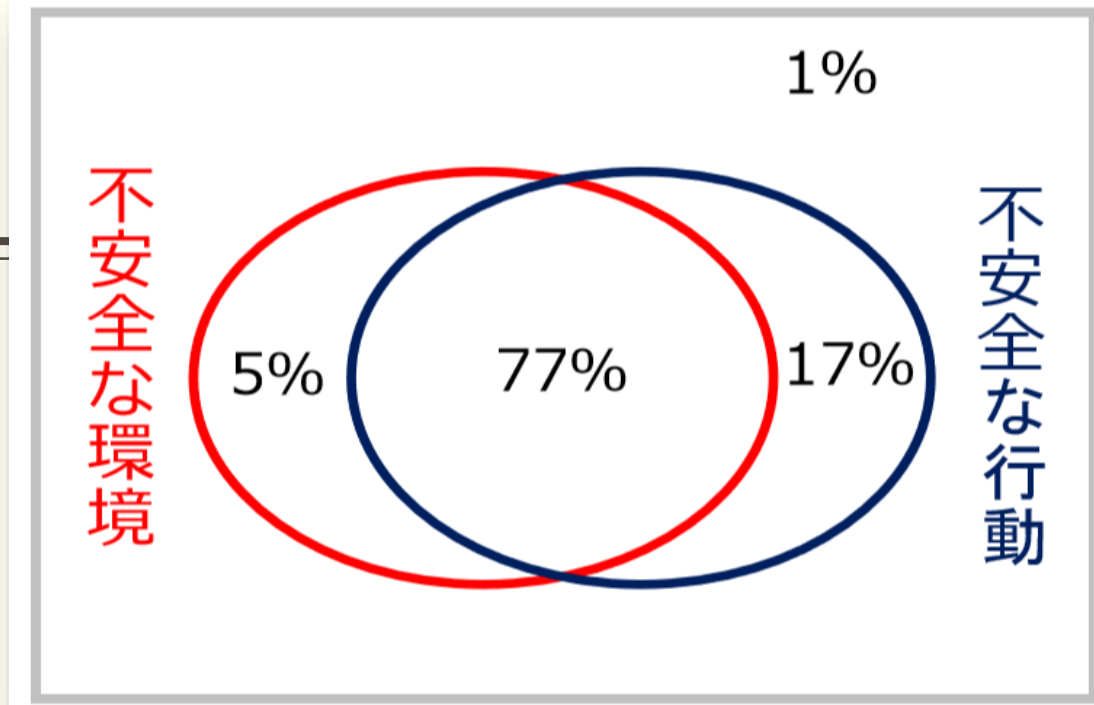
その理由を右の図をもとに説明します。

この図は、教職員支援機構の研修動画「学校安全」（右下）に出てくる図です。

事故等が発生する際の原因について、その

99%が、「不安全な行動」「不安全な環境」が原因であることを示しています。[（詳細はこの動画で！）](#)

言い換えると、学校で起きる事故等の99%は「子供の安全な行動」や「学校の安全な環境」により防ぐことができるということです。



子供の意識が大事な理由

特に着目したいのは、**原因の94%の**

「不安全な行動」です。この行動の主体は、

当然子供たちです。仮に先生方が危機管理の大切

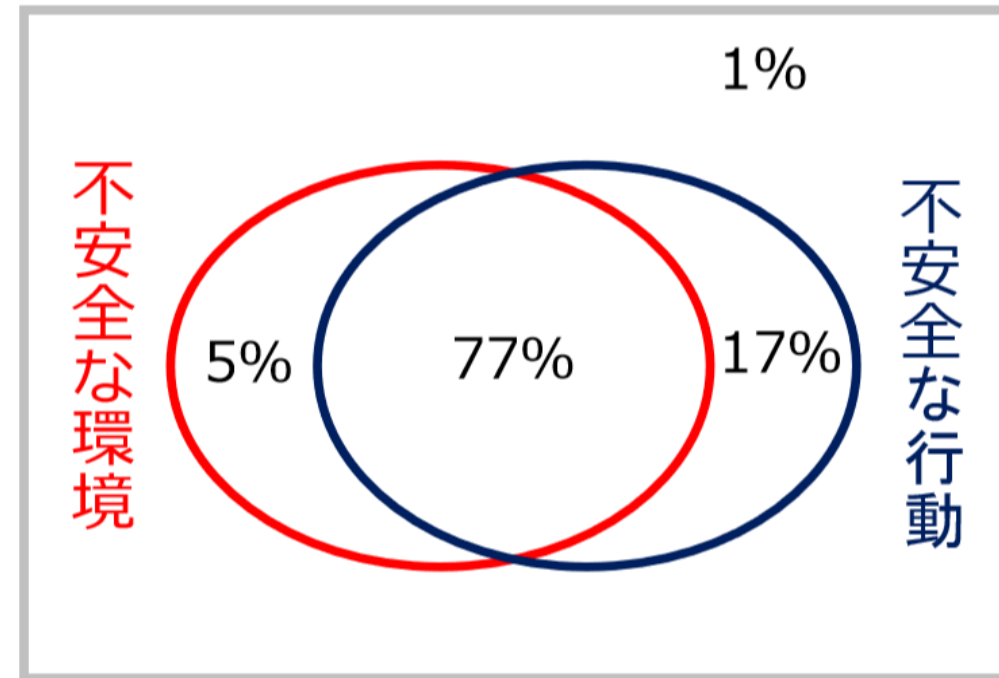
さについてしっかり理解し、意識を持って子供たちに関わっても、子供たち自身が

その大事さを理解しなければ、ただ**「注意されるから言われたことは守る」**といった

行動しかできません。私たちの目が届く範囲には限界があるし、そのことばかりを言っ

ているわけにはいきません。子供たち自身が、**「安全に気を付けよう！」**と自分で思わない

限り、子供たちの安全は守れません。（当然のことですが、大事なことです。）



※こんなことが...

この事例は、「学校の管理下の災害」（日本スポーツ振興センター）が作成している冊子に掲載されている死亡事故の事例です。帰宅途中に遊ばないことや、遊具で遊ぶ際に気を付けることは指導されていたかもしれませんが。

しかし、（1年生だから仕方がないかもしれませんが...）この子自身に、「危ないからやめよう」の意識や、一緒に遊んでいた友達に「危ないよ」という意識があれば防ぐことができた事故かもしれません。

29死- 8 小1年・男 窒息死（溺死以外）（下校途中）

友人と一緒に帰宅途中、ランドセルを背負ったまま遊具で遊んでいた。

すべり台を滑ろうと、正方形の格子の上を渡って向かおうとしたところ、

足が滑り、格子にランドセルと体が挟まった状態になり首が格子の棒で

圧迫された。すぐそばにいた大人に助けを求め、救急搬送され、病院で

心肺蘇生を行った結果、蘇生したが意識は戻らず数か月後に死亡した。

子供たちの安全に関する意識の向上のために

では、先生方なら、どのようにして子供たちの安全に対する意識を高めますか？

「ひたすら言い続けるしかない」「そもそも難しい…」 でしょうか？ このことについて

も、先ほど紹介した研修動画の中で、次のような説明があります。 (字が小さくてすみません)

「あれは危ない、これも危ない」といった「危ない」を前提とした教育が行われていますが、「危ない、危ない、」といった脅しの教育では、危ない所がある環境に不信感を抱いたり、けがをした人に対して「危ないことをしたあなたが悪い！」といった犠牲者非難につながったりする恐れがある。

そうではなくて、「みんなが大事だから、私たち大人は皆さんの安全を守っていますよ。」
「皆さんのことが大事なんですよ。」といった関わり（支援）をすれば、子供たち自身も、自分を大事に思い、安全を大事にしようとする意識が出てくる。

実際に、「あなたは大事」といったサポートをたくさん受けている子は、そうでない子に比べて、「安全な行動をしよう！」とする意識が高いという結果が出ている…。



子供たちの安全に関する意識の向上のために

つまり、

「安全のために、あれをしなさい！これはだめ！」

という行動面のみの指導だけではなく、

「私は、あたなのことが心配で、安全に過ごしてほしいから、こんなことに気をつけて！」

という気持ちも伝えることが大事だということです。

※これも、当然していることかもしれませんが、これをもっと強調するということです。

子供たちの安全に関する意識の向上

このことについて、昨年度の若年 1 年目の先生方への講義では
以下のような話をしています。

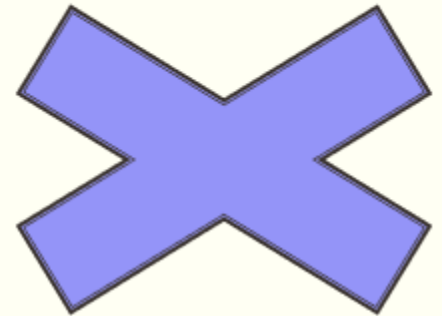
「注意ばかりでは、**自分で判断できなくなる**というだけでなく、『先生、●くんがまた～してます！』という友達を非難する子供が出てくる。

☆大切なのは「未然防止」！ ですが…

「あれもだめ」「これも危ない」

→自分で判断ができない…

→先生、○○くんが、また！



「みんなのことが大事だから、気をつけようね！」



→自分で気をつけよう！

→先生、危ない場所を見つけたよ！

子供たちの安全に関する意識の向上

一方、『みんなのことが大事だから…』で話をすると、

『自分で気をつけよう！』

という意識が高まったり、

『ねえ、みんな、ここが危ないよ！』

というように子供が一緒になって

安全管理ができるようになります。

まずは、安全管理に前向きに

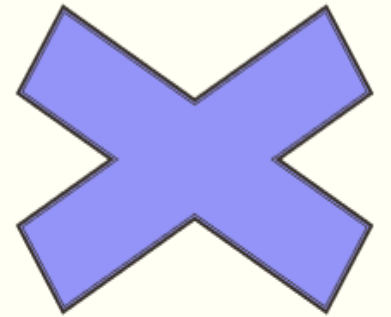
なるような声かけをしましょう！」

☆大切なのは「未然防止」！ ですが…

「あれもだめ」「これも危ない」

→自分で判断ができない…

→先生、〇〇くんが、また！



「みんなのことが大事だから、気をつけようね！」



→自分で気をつけよう！

→先生、危ない場所を見つけたよ！

2 子供たちの安全に関する意識の向上

また、先ほどの研修動画の中には、有名な右の詩も紹介されています。

大人の行動の具体例として、「～すれば、」にあたるような行動をすることで、子供たちが自分を大事にするようになり、それが自分で自分の安全を守ることにつながるということです。

子は親の鏡（一部抜粋）

（ドロシー・ロー・ノルト 作）

励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる
守ってあげれば、子どもは強い子に育つ

大人の私たちも同じでは…

大人である私たちにも同じようなことが言えます。理由が分からず、ただ単に、「あれをやって下さい！これは守って下さい！」と言われるだけでは、仕方なくすることはあっても、管理の目が届かないときにはやらない…、そうなりませんか？ これは危機管理に限ったことではありません。

また、私たちがどんなに子供たちのことを思って、「これをやりましょう！これはやらないほうがいい！」を伝えても、『**なぜそれが大事か**』が伝わらなければ、受け身のまま（なにも考えずに）言われたことだけする子供になってしまいます。

少し話がそれますが、…

今、私たちは、県内の先生方へ、教育の新しい動向やこれからの学校・学級経営、教育活動の在り方などを伝える立場にいます。どの内容についても、知れば知るほど大事なもののばかりです。一方、学校で子供たちと向き合う先生方は、今日・明日の授業や次にある学校行事、一人一人の悩みや問題と向き合い、多忙な毎日を過ごされています。忙しい中、研修に来られた先生方へ、私たちが伝えたいたくさんのことについて、その内容を「あれも大事、これも大事、…」と伝えるだけでは、その研修の目的である「先生方に十分理解してもらう」「行動を変えてもらう」にはつながりません。つまり、伝えているだけで、伝わっていません…。

私たち伝える側（先生方も同じ！）が一番大事にしなければならないことは、その内容を伝える前に、

「なぜ、今、このことが大事で、皆さんの大事な時間を使ってまでも伝えようとしているか。」

というように、**その大事さ、なぜこの話をするのか**を分かってもらうことです。**そこさえ十分に伝われば**、先生方はその内容について興味をもって聴いて下さいます。さらに、自ら学ぼうとされます。

おわりに…

子供自身の安全に関する意識を高めよう！ そのために、行動を制限するような言葉かけの前に、『あなたが大事だから』『命が大事だから』という気持ちを伝えたり、『こんな理由があるから、こっちの行動がいい！』を伝えたりしよう！

…これが、今回伝えなかったことです。前回の「**知識より意識が大事！**」は、私たちに言えると同時に、**子供たちにも言えること**です。

全ての子供たちが「自分の安全、友達の安全を守るって大事だな！」といった気持ちになることを願っています。

※次回は、危機管理の際の留意点（こんなことに気を付けよう！）です。